

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 生物科学総合研究所

職階 教授

氏名 落合秀治

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学費を納付していただいている学生の学資負担者様の期待に応えるよう学生を社会の要請にこたえられる人間に育てたい。獣医学科学生には国家試験合格を最優先させることはもちろんのこと、また動物応用科学科学生についても、彼らが志望した職種・企業に就職できるような求められる人材の育成を心掛けたい。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
地球共生論	獣医学科	必修	1	147
動物生化学	動物応用科学科	必修	1	163
獣医放射線学	獣医学科	必修	2	163
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	2	163
生命科学実習	動物応用科学科	必修	2	164
獣医学特論 1	獣医学科	必修	6	3
卒業論文	獣医学科	必修	6	3

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

生物科学総合研究所のただ一人の専任教員であり、大学組織図上、直接学科には所属しておらず、学生にとってなじみのうすい存在であろう。しかしながら幸いなことに研究室に所属している学生は平均して一学年獣医学科3名、動物応用科学科4名程度と他の研究室の教員一人当たりの指導数としては同等である。他の研究室から途中で移動した学生が多く、またその逆もある。所属学生に聞くと他の研究室より「飼育当番等がなく、研究室の拘束時間が少なそう」であることを選択理由に挙げる学生が多いのは時代の流れであろうか。私自身としては、卒業論文作成と直接関係のうすい作業は学生にとって負担であろうと認識しているので、極力なくすように努めている。とはいっても卒業論文自体はれっきとした必修単位であり最低限の実験の遂行は必須であることは学生に伝えている。学生が最も負担と考えている卒論実験そのものが自分の人生にとって何の役に立つのであろうか、と考える学生がいるかもしれない。しかし、学生時代に「必ずやらなければならないこと」をひたむきに実践することは彼らが社会に出たときに代えがたい貴重な経験になると私は確信している。一方、卒業論文実験を最小限にすべく、教員からの指導やタスクをテキトーにながす者もまれにいる。私は35年間、学生を観察してきたが、残念ながらそのようなケースでは例外なく就職活動で満足した結果を残せていない。おそらく採用担当者も学生の人間性、仕事に対してひたむきにとりくめるかを慎重に判断しているのであろう。学生は多額の授業料を支払っている。この現実はきわめて重い。私は本学学生全員にその授業料のもとをとって卒業してもらいたいと思っている。その一つに就職活動での成功があるし、私はこれに対し最大限に応援したい。就活期間は全力で活動してもらいたいし、悔いのない結果を残してほしい。そうして納得のいく結果が残せたのであれば、残りの時間の一部を使って研究室活動に専念してもらいたい。多様な学生の能力・熱意に応じたきめ細やかな指導が必要であると考えている。私も学生たちと一緒に成長していきたいと思っている。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

動物生化学・動物生化学実習で使用する教科書はヒトの生化学を例にとってはいるが、生命現象、疾病と原因因子（遺伝子疾患）を明快に解説した良書である。もちろん教科書の内容をわずか半年ですべてを理解させるのは不可能である。特に動物応用科学科の学生が興味を持つ部分に焦点を絞り、動物生体内で起きている化学反応について理解を深める。獣医放射線学では放射線生物学の基礎の部分を担当している。この担当部分から毎年獣医師国家試験に2～3題が出題されている。基礎部分は学生の多くの獣医学科学生が苦手とする物理学の知識が必要であるが、それでも講義内容を獣医師国家試験の過去問に関連付けると学生の関心度の増加が顕著であった。国家試験での出題の形にこだわりながら、今後出題されそうな部分を学生とともに想像しながら、活気ある講義・実習を遂行する。地球共生論では私のトピックスは原子力発電の問題点である。原子力発電廃止か容認かは国論を二分する難しいイシューである。現在のところ正解はない。エネルギーが文明の発展に不可欠であることは疑いようがないが、再生可能エネルギーの安定供給はまだまだ時間がかかりそうである。二酸化炭素排出を伴う火力発電所の運用も将来的には大幅に減らさなければいけない課題である。各発電システムを取り巻く状況、特に原子力発電を取り巻く歴史、社会的環境、放射性廃棄物の処理問題を私が一方的に述べるのではなく、若い学生たちが正しい情報をもとに判断し、それぞれの意見を持つところに到達することを期待する。同時に私が持つ意見が偏重しないように「正しい事実の提供」を心掛けなければならない。近年のカーボンニュートラルの原則の普及により原子力発電への関心度が再浮上している。政治や経済の状況しだいで浮沈を繰り返している原子力発電であるが、原発事故、高レベル放射性廃棄物処理問題について大きな視野を持って考えてもらいたい。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

コロナ禍での遠隔授業が拡がりを見せたが私は対面授業にこだわりたい。受講者の多さから限界もあるが出席者に直接質問をすることに努める（その出来不出来は評価の対象としないことを事前に周知する）、予想以上の回答ができた場合にはあえて賞賛するなど学生のモチベーション維持を図るようにする。

#### (2) ICTの教育活用

有

AzaMoodleを積極的に活用して、動物生化学では毎回小テストを実施し、学生の理解度を補足している。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

「10年同じ授業」とはならないよう、少しずつではあるが最新知見を加えるようにしており、逆に不必要な部分は削除している。

### (2) 学生の理解度の把握

A

AzaMoodleにて授業ごとに小テストを実施しており、毎週授業ごとの理解度を追跡している。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

B

これは十分とは言えないかもしれない。学生の授業は過密であり、教員全員が自学自習を促した場合、負担がキャパを超える恐れがあるので少しためらっている。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

質問しやすい環境づくりが大切だと思う。授業の終盤に質問時間を設けている。

### (5) 双方向授業への工夫

A

対面授業にこだわっている。大人数を対象とした講義ではやや困難ではあるが、実習では各班のデータを全体に共有している。結果の解釈、考察への助言を各班のレベルに合わせて提供し、学生の理解を深めている。

## (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

獣医学科学生にとっては獣医師国家試験の合格は就職活動以上に最重要課題である。本学の学生であれば、卒論提出期限の10月末からの本格的な国試対策勉強で十分合格可能であると考え、中には不安を抱く学生もいる。学生が希望するのであれば他の研究室より一段と早い時期に卒論に関わる実験を終了させ、結果として卒論の提出時期を大幅に早めることも可能としている。また、国家試験対策時期では学生は精神的に不安定な状況になることが多い。私の経験から学生ごとに適切な助言を与え、各学生に対して最高の状態で試験会場に送り込むことにしている。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートは学生から教員への「通信簿」ととらえているので、提案されたことは真摯に受け止めている。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

定期テスト主体の評価は学生負担が大きいとの意見について、毎回実施する小テストの素点を加味するようにして、定期テストの点数の割合を落とした。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

定期テストの素点で、低得点の学生数が減った。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義資料の改善や小テスト実施といった取り組みにより、学生への授業内容の定着や復習を促すことに取り組んでいる。

### (2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

このフィードバックの評価は難しいが、単位未修得者の割合が年々減少傾向である。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

各種FD・SDセミナーには必ず参加し、研鑽を積むようにしている。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

私はすでに還暦を迎え、もはや若手教員のように肉体的に活発な活動はできなくなってきた。年齢も親子ほど離れている。ではあるが年齢の壁を感じさせないように学生にはフレンドリーに接し、不満があれば直接伝えられる関係を築きたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。